

京都 其の七十一

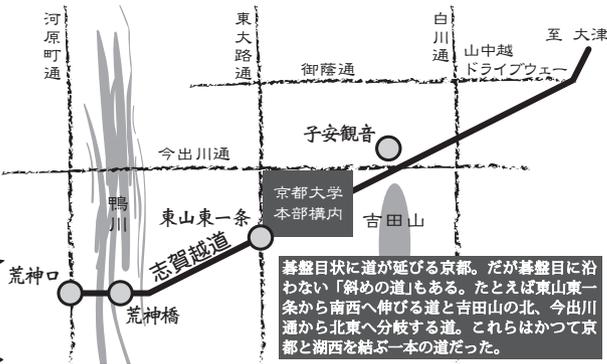
ろろつきまわりんぐ

志賀越道は京都と大津を結ぶ近道で、今も「山中越」「今路越」の名が残る。現在では山中越ドライブウェイが利用されているが、古くは湖西・北陸地方の物資を京都へ運ぶのに利用された道だった。

志賀越道の出発点は河原町丸太町の北にある荒神口。そこから東に進むと鴨川にさしかかる。幕末に荒神橋がかかったが、その後も牛車は橋を傷めるので、すべて鴨川の中を通らされた。このため、牛車が川に降りていく道が人の通る橋とは別に設けられ、今もその跡が荒神橋西詰のたもとに残る。

橋を渡り、北東への細い道を進むと東山東一条の交差点に着くが、ここで北東への道が途切れる。目の前には京都大学。地図を見てみると、京都大学を挟んだ道の延長上に同じく北東へ伸びる道がある。そう、すでにおわかりのように、志賀越

志賀越道



道は京都大学により分断されているのだ。かつて道は現在の時計台北側を通り、本部構内東門付近の道につながっていたとされる。時計台の改修に伴う発掘調査では道の遺構が発見されている。

北白川バス停付近で今出川通と交わる。

この角には大きな石の仏像がどっしりと



▲子安観音。同様の大きな石仏が峠と下り口にも建つ。花を売り歩くと

暮盤目状に道が延びる京都。だが暮盤目に沿わない「斜めの道」もある。たとえば東山東一条から南西へ伸びる道と吉田山の北、今出川通から北東へ分岐する道。これらはかつて京都と湖西を結ぶ一本の道だった。

きに、この仏像に安全を祈ったという。また、この仏像は「太閤の石仏」とも呼ばれ、太閤秀吉がこの前を通りかかったときに気に入って、聚楽第に運ばせたが、毎晩不気味なうめき声とともに、仏像が

「元の地へ戻りたい」と秀吉の夢の中で言ったので、元に戻されたと言われる。

また、道のところどころに小さな仏像が祀られている。昔は道中の安全を守るための道祖神が、街道沿いや集落・国境に祀られていたというが、これらの仏像もそのような役割を持っていたのだろう。

現在、志賀越道は車一台しか通れない部分やハイキングコースとなっている部分も多い。しかし、そこはかつて多くの旅人が利用した重要な交通路だった。もしかしたら、目の前の身近な路地にもそんなエピソードが隠されているかもしれない。(A-K)

SHOP INTRODUCTION 103

手打うどん

めんてい

叡電元田中の駅近く、赤提灯と大きな暖簾が目印の店、「めんてい」。今回は、この店のうどんの魅力を紹介する。

店内に入ると、程よく古びた内装が歴史を感じさせる。席に着いてしばらくすると、注文した「とりなんぼううどん」が運ばれてきた。暖かい湯気が筆者の眼鏡を曇らせる。早速いただくことにした。



はみだし
すてーじ

1.5倍スーパーカップのラーメンは、コタツにスープをこぼした時の被害もスーパーでした。

(工・2 滋賀の鬼殺し)

おすすめ

- ・めんていうどん (下写真) ¥630
 - ・Bセット(肉カレーうどん+ライス) ¥600
 - ・ざるうどん ¥530
- ※うどんの量は1玉、1.5玉、2玉、全て同額(鍋焼きうどん除く)



また、うどんの量を1玉、1.5玉、2玉、どれにしても全て同額なのが嬉しい。これについて店長は、「開店当時は何玉でも自由だったけど、10玉とか注文されるとさすがに困ってね…」というエピソードを聞かせてくれた。この人のサービス精神には脱帽だ。

店内には、勤め人や近所のおばさんなど常連客が多い。この店のうどんに魅せられた筆者も、また食べに来ようと心に決めたのだった。(ペー)